平成30年度行政評価シート

平成 30 年 7 月 6 日

評価者	消防長　　斎藤　務

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	消防機能の整備・充実
目標とすべきまちの姿	消防施設は老朽化耐震対策が実施され安定的に火災等への対応がなされています。消防救急無線はデジタル化が図られ、緊急時にも適切な情報通信が可能となっています。 市民の防火・防災意識は高く、すべての一般住宅には住宅用火災警報器が設置され、災害時の避難誘導等の減災体制は消防団、自主防災組織などとの連携が効果的に行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	16.7%	平成28年度	14.7%	平成29年度	14.8%	(回答者全体に占める割合)

(2) 妥当性

お金の使い方

仕事の効果	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	1.3%	0.6%
ちょうどよい	5.3%	57.4%	1.9%
効果不十分	2.7%	1.4%	5.7%

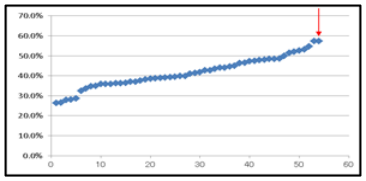
お金の使い方

仕事の効果	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	2.7%	0.7%
ちょうどよい	3.7%	59.7%	1.6%
効果不十分	1.6%	2.5%	6.6%

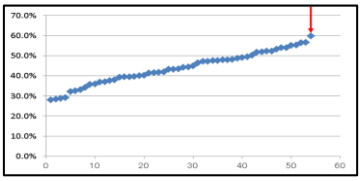
お金の使い方

仕事の効果	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.4%	1.8%	0.5%
ちょうどよい	4.4%	58.0%	1.6%
効果不十分	2.5%	1.9%	8.6%

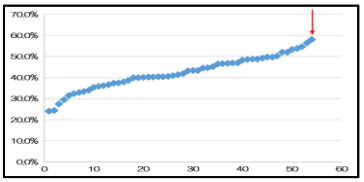
平成27年度



平成28年度



平成29年度



全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	18.3%	59.8%	2.1%	19.9%
平成28年度	17.2%	61.8%	1.8%	19.2%
平成27年度	15.5%	59.9%	2.1%	22.5%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

① 消防活動の拠点となる庁舎の適切な維持管理を進めていく。(消防－02、消防－04)
② 職員の世代交代による経験不足のための実戦訓練を計画的に実施する。(鎌倉・大船消防署警防活動)
③ 高機能消防指令センターの効率的な運用を実施する。(消防－09)
④ AEDの普及による救命率の向上を目指す。(消防-06)
⑤ 市民の救命率を向上するため、救急講習の受講人員の向上を図る。(消防－06)
⑥ 市民の防火防災意識の向上を目指すとともに、防火管理指導を徹底する。(消防－10)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

① 消防庁舎の適切な維持管理を行うことで、安定的な災害への対応がなされる。
② 各種災害対応への実戦訓練をすることで、安定的な災害への対応がなされる。
③ 高機能消防指令センターの効率的な運用を実施することで迅速な指揮命令が構築され、安定的な火災等への対応がなされる。
④⑤ 「目標とすべきまちの姿」には具体的な記述はないものの、AEDの普及や救急講習の受講人員が増加することで、救命率の向上が図られ、救急体制が充実し、市民が安心して暮らせるまちに近づくことができる。
⑥ 防火対象物への立入検査を計画的及び継続的に実施することで防火意識の向上が図ることができる。
また、市内の住宅用火災警報器の設置率を調査し、その結果から設置率向上に向けた取組みを行うことで市民の防火意識の向上が図ることができる。

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
消防-01	消防運営事業	40,503	41,683	77,009	82,453	4.5	4.5		b	B
消防-02	消防施設管理事業	16,064	18,508	26,358	27,759	1.0	1.0		b	B
消防-03	消防団運営事業	97,761	73,566	81,416	70,120	1.0	1.0		b	A
消防-04	消防施設整備事業	324,336	2,474	6,399	13,589	0.5	0.5		b	B
消防-05	警防活動事業	19,705	21,203	36,921	39,257	2.0	2.0		b	B
消防-06	救急活動事業	12,539	14,419	22,278	23,802	1.0	1.0		b	A
消防-07	消火栓管理事業	4,075	3,565	11,424	13,296	1.0	1.0		b	B
消防-08	車両購入事業	165,372	69,659	77,518	113,094	1.0	1.0		b	B
消防-09	指令活動事業	72,851	79,053	176,557	198,202	12.0	13.0		b	B
消防-10	予防活動事業	685	928	81,895	83,586	10.5	10.5		b	B
	鎌倉・大船消防署警防活動	0	0	1,571,505	1,635,074	192.0	192.0		b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】
① 災害時に地域の消防活動の拠点となる消防団の器具置場(第24・27・28分団)の耐震診断を実施した。(消防－04)
② 継続的に各種訓練を実施し技術の向上を図った。(鎌倉・大船消防署警防活動)
③ 高機能消防指令センターの構築により迅速な出動指令体制が図られ、現場到着までの平均時間が全国平均より短縮した。
(消防－09)
④ 救命率の向上させるため、市内のコンビニエンスストアにAEDを設置した。(消防－06)
⑥ 市内防火対象物の46%を対象に立入検査を実施し、防火指導の徹底を図った。(消防－10)

【実施できなかった事業とその理由等】
⑤ 救急講習全体での受講者は、一万人を上回ったが、救急講習の周知不足により3時間以上の救急講習受講者数が目標を達成できなかった。(消防－06)

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

＜上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等＞
① 消防団の器具置場(第24・27・28分団)の耐震診断を実施し、結果に基づき平成30年度の耐震補強の計画を行ったことにより適切と評価した。
② 消防署では、実戦的な訓練を企画し実施することで、職員個々の技術の向上が図れたことにより適切と評価した。
③ 高機能消防指令センターの構築により、現場到着までの平均時間が全国平均を1分上回ったことにより適切と評価した。
④ 救命率の向上を図るため、市内のコンビニエンスストア52店舗にAEDを設置し、市内のAED設置の普及を行ったことから適切と評価した。
⑤ 「目標とすべきまちの姿」には具体的な記述はないものの、救急講習(3時間以上)受講者が目標の5,000人に達せず、救命に関し市民への周知不足と判断し、今後の広報活動を充実させるため、要改善と評価した。
⑥ 市内防火対象物への防火指導、住宅火災用火災警報器の普及啓発活動の実施により、平成29年度の火災による死者0人としたことから適切と評価した。

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

① 消防団の器具置場(第24・27・28分団)の耐震診断の結果により、第27・28分団器具置場の耐震補強のため、耐震設計業務及び耐震工事を実施する。
② 多種多様化する災害に備え、今後も継続的に訓練を実施し災害対策への強化を図っていく。
③ 高機能消防指令センターの適切な維持管理を行い、迅速な出動指令体制を続けていく。
④ 救命率の向上めざし、市民へ市内のコンビニエンスストアに設置したAEDの周知及び維持管理の徹底を図る。
⑤ 救急講習(3時間以上)受講者の向上のため、市民に対し、救急講習の重要性を目的とした広報活動を充実させる。
⑥ 市内防火対象物への防火指導及び消防法違反対象物の撲滅を継続的に実施し、今後も火災による死者0人を継続するため、防火意識の向上を図る。

(7) 平成30年度の目標

① 平成29年度に引き続き、消防活動の拠点となる消防庁舎の適切な維持管理を行うとともに、消防団器具置場の耐震補強についても計画をもって実施していく。(消防－04)
② 平成29年度に引き続き、職員に対して継続的訓練を実施し技術の向上を図る。(鎌倉・大船消防署警防活動)
③ 平成29年度に引き続き、高機能消防指令センター構築による円滑な指揮命令及び災害活動の充実を図る。(消防－09)
④ 平成29年度に引き続き、市民の救命率を向上するため、コンビニエンスストア等に設置したAEDの適切な運用及び救急講習の受講人員の向上を図る。 (消防－06)
⑤ 平成29年度に引き続き、市民の防火防災意識の向上を目指すとともに防火管理指導の徹底を図る。(消防－10)
⑥ 消防団の装備充実を図り、訓練を実施し常備消防との連携を図る。(消防－03)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

① 消防庁舎の適切な維持管理を行うことで、安定的な災害への対応がなされる。
② 各種災害対応への継続的な実戦訓練をすることで、安定的な災害への対応がなされる。
③ 高機能消防指令センターの効率的な運用を実施することで迅速な指揮命令が構築され、安定的な火災等への対応がなされる。
④⑤ 「目標とすべきまちの姿」には具体的な記述はないものの、AEDの普及や救急講習の受講人員が増加することで、救命率の向上が図られ、救急体制が充実し、市民が安心して暮らせるまちに近づくことができる。
⑥ 防火対象物への立入検査を計画的及び継続的に実施することで防火意識の向上が図ることができる。
　また、市内の住宅用火災警報器の設置率を調査し、その結果から設置率向上に向けた取組みを行うことで市民の防火意識の向上が図ることができる。
⑥ 消防団に配置する装備を強化し、常備消防と訓練することにより消防団との連携が図られるともに、災害時の減災体制が効果的に発揮できる。

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	消防－04	事業名	消防施設整備事業							
指標の内容	消防施設の整備状況					単位	—	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
消防団第27・28分団の耐震補強	目標値	－	－	－	耐震診断	耐震設計	耐震工事			
	実績値	－	－	－	耐震診断実施					
	達成率	－	－	－	100.0%					

整理番号	(鎌倉・大船消防署警防活動)	事業名	鎌倉・大船消防署警防活動							
指標の内容	各種訓練等の実施日数					単位	日	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
災害活動のための各種訓練を実施し組織力の向上を図るため。	目標値	－	－	－	365.0	365.0				毎日訓練を実施
	実績値	－	－	－	365.0					
	達成率	－	－	－	100.0%					

整理番号	消防－06	事業名	救急活動事業							
指標の内容	救急講習の達成率						単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
心肺蘇生法及びAEDの取扱いを習得してもらい、市民による救命率の向上を図るため。	目標値	3,000.0	3,000.0	3,000.0	5,000.0	5,000.0				
	実績値	3,975.0	4,061.0	4,020.0	4,003.0					
	達成率	133%	135.4%	134.0%	80.1%					

整理番号	消防－03	事業名	消防団運営事業							
指標の内容	消防団の装備充実						単位		指標の傾向	⇗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
消防団員が安全・迅速な活動を行うことで市民の安全を守るため。	目標値	－	－	防火衣・活動服	防火衣	救命胴衣	活動服			
	実績値	－	－	防火衣・活動服	防火衣					
	達成率	－	－	100.0%	100.0%					

整理番号	消防－10	事業名	予防活動事業							
指標の内容	住宅用火災警報器の設置状況調査率向上						単位		指標の傾向	⇗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
住宅火災での逃げ遅れによる火災の根絶のため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	活動服			
	実績値	84.2	71.0	72.0						
	達成率	84.2%	71.0%	72.0%						

参考　前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題		指摘への対応、コメント等
・消防職員は若手が活躍する職場である。多数の団塊世代職員の退職により、年齢層が若返り、消防業務の継承が急務である。		消防署では、災害活動についての各種訓練を継続的に実施し、若手職員の経験不足を補っていく。
・消防機能の整備・充実については、インフラ機能以外の人的な強化内容についても、明記して頂きたい。（大会への出場・記録など）		日々の訓練の成果により、平成29年度は、第46回全国消防救助技術大会で6名が入賞した。
・緊急車両が進入出来ない狭隘な道路などにおける対策等についても記載して頂きたい。	⇒	狭隘な道路など、職員による地域特性の把握、消防車両を使用して進入経路の確認等、警防研修を随時行い、災害発生時に適切な対応が図れるよう職員間で情報の共有を行なっていく。 また、消防隊にはホースレイヤー（ホースを迅速に延長できる資機材）等、救急隊にはストレッチャー（傷病者を安全に搬送する資機材）等を導入し、狭い道路でも迅速な消防活動が実施できるよう、対応していく。
・「自主防災組織への消防訓練指導を実施」とあるが、地区イベントへの参加による啓蒙とともに、各自主防災組織の現状について把握し個別提案することが課題である。		自主防災組織への訓練方法については、防災安全部と連携を図り、実りある訓練が実施できるよう検討していく。
・「火災報知器の設置促進」は実態把握と他自治体好事例の把握が必要なのではないか。		総務省が実施している調査により設置状況を把握している。また、近隣自治体の設置啓発パンフレットを取り寄せるなど、効果的な設置促進策を検討している。

提言

・シートにまだ記載されていない取組で市民に提示すべき内容があるのではないか。取っている対策をできるだけ多く、書き記してほしい。

・団塊世代職員の大量退職は予期出来た現象である。今更ではあるが、「知識・技術の伝承を狙いとする研修・訓練」は計画的に実施すべきである。

・訓練参加が100パーセントなのは当たり前である。質の向上をどのくらい図ったかということが重要。技術レベルをBからAにするなどを目標とし、指標として設定すべき。

・老朽化が著しい消防庁舎の維持管理について、適切な修繕補修を行い諸課題を整理する必要がある。

・鎌倉には消防車が入れないような小さな路地が数多くある。火災時の対応策はあるだろうが、心配である。狭隘路地へのホースの展開、消防設備機器の対応などが必要である。

・消防団自体の強化と共に、消防・防災に大きく関わる都市整備や建築関連部局との連携や、市民意識の向上への注力などで、市全体の消防対策強化に努めてほしい。

⇒

提言に対するコメント等（総論）

消防本部の実施事業は、各シートに記載のとおりで、平素からの安全安心の確保、火災予防の啓発や各種相談などに努めるとともに、災害時には市民の生命財産を守ることが使命と考えている。

このため、職員は、日々の訓練のほか、消防学校等に出向し、知識技術の向上に努めている。

また、活動拠点となる消防庁舎の維持補修については、各署所の状況把握に努め、緊急性を考慮し順次実施してるところである。

活動場所となる市内各所には、消防活動が困難な場所があることは認識しており、職員による地域特性の把握、消防車両を使用して進入経路の確認等、警防研修を随時行い、災害発生時に適切な対応が図れるよう職員間で情報の共有を行なっている。

また、消防隊にはホースレイヤー（ホースを迅速に延長できる資機材）等、救急隊にはストレッチャー（傷病者を安全に搬送する資機材）等を導入し、狭い道路でも迅速な消防活動が実施できるよう、対応している。

今後も各資機材について研究・調査し、道路狭隘な場所においても、迅速・確実な消防活動が行なえるよう、最新鋭の資機材の導入を検討し万全な対応を目指していく。

このような、日々の活動で得た情報は関連部局との共有に勤めるとともに、消防出初式や防災訓練などの機会を捉え啓発活動行い、ソフト・ハード防火防災意識の向上と被害の軽減に努めていく。

質問

・「救命講習」は受講人数目標を達成しているが、消防当局が受講を希望する対象者への働きかけは行っているか。

⇒

質問に対する回答

鎌倉市ホームページ、広報かまくらへの掲載、各事業所への訪問、各種イベントなど、市民が多数集まる場所への普及啓発ポスターの掲出を行っています。